

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。  
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。  
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。  
 ※いずれの場合も、必ず A3 片面1枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは5MB以下としてください。

<b>エントリー学校名：</b>	埼玉県加須市立騎西中学校
<b>活動名：</b>	教職員の総活躍を期待して ～学校組織マネジメントを活かす～
<b>解決すべき課題：</b>	①教職員の負担軽減 ・量的な負担を減らすのは難しいので、負担感の軽減を図る取組を進める。 ②教職員の学校運営の参画意識の高揚と諸活動の充実 ・教職員の声を学校運営に活かし、教職員の参画意識を高めることで、教育活動の充実を図る。
<b>目標・方針：</b>	「トップダウン型」「ミドルアップダウン型」「ボトムアップ型」それぞれのマネジメントをうまく機能させることができれば、教職員の参画意識を高めることができると考えた。また、教職員が得心した上で活動することは負担感の軽減につながると考えた。そのために『①管理職からの提案を主幹教諭や各主任に下ろし、職員の意見を取り入れる。』『②職員の意見を取り入れるためのアンケートを実施する。』『③PDCA サイクルで検証を重ね、2～3年計画で実施・充実を図る。』『④最終的にはボトムアップ型での提案による運営とする。』
<b>活動内容：</b>	・改善を図るプロセスで学校組織マネジメントをうまく機能させ、教職員の意識の向上につなげる。(図2) ・学校の課題や課題解決を見いだすための教職員アンケートを実施し、課題の共有化を図る。(表1) ・次年度に新規で取り組む教育活動、改善したい教育活動について、教職員にアンケートをとり、方向性を見いだす。(具体例としてローテーション道德の取組を挙げる。)(図1, 図3, 5) ・学校評価から教職員の意識の変化を検証し、教職員の資質の向上を目指す。(グラフ1)
<b>活動の成果：</b>	・学校組織マネジメントを機能させたことにより、課題解決の立案が管理職から担当者に移り、学校運営が活性化した。また、教職員間で合意形成が図れたことにより、活動そのものも充実した。(図2, 3, 5) ・学校運営の改善のためのアンケートを行うことにより、課題の共有化が図れた。また、教職員の意見が反映され、解決の方策が提案されたことで、教職員の参画意識が高まった。(表1・グラフ1) ・新規の取組を行うにも教職員の合意形成を図り、「ミドルアップダウン」「ボトムアップ」でのマネジメントを段階的に進めることにより、教職員の負担感が軽減される。(図3, 5) ・これらの取組を通して「組織的活動」「報告・連絡・相談」「開かれた学校づくり」といった項目の伸びが確認された。教職員の学校運営への参画意識の向上に起因するものと考えられる。(グラフ1)
<b>アピールポイント(アイディアや工夫)：</b>	○新規の取組を立ち上げたり、既存の取組を改善したりする際の提案を、トップダウン型→ミドルアップダウン型→ボトムアップ型とマネジメントを替えることで、教職員の学校運営への参画意識を高める工夫をしている。 ○教職員の意見の吸い上げと改善に活かし、ボトムアップを図ることにより、教職員の学校運営への参画意識を高め、勤務意識の向上につなげている。 ○業務の量的な負担軽減になっていないが、教職員の負担感の解消(軽減)を狙っている。

図1 課題の共有から実践までのプロセス

教職員へのアンケートをもとに学校課題を共有し、その課題解決を図る策の実践につなげる。(学校評価の有効的な活用)

- ①次年度に向けたアンケート [年度内の反省と新たな課題の共有化]
  - ②アンケートの分析 [解決案・改善案の策定]
  - ③実践計画を策定 [課題解決の計画]
  - ④年度内の実践 [課題解決]
- ※ポイント  
改善をはかる取組を限定し負担感を抑える。

図2 活動の充実を図るための段階

- 第1段階** 管理職から提案(方向性を定める)  
※解決の方向性の最初は管理職が提案すべき
  - 第2段階** 主幹教諭(教務主任)・教科主任が提案  
※教職員の合意形成のもと実践にする。
  - 第3段階** 各学年や教科担当が提案実践  
※方向性が明確であり、合意形成が図れているので、確実に実践できる。
- ◆段階的に提案・実施することで教職員のモチベーションが上がり、負担感の軽減につながる。

表1 実施したアンケート例(一部)

項目	現状で良い	改善が必要	対応
1 週29時間	100%	0%	・現状を維持(変更なし)
2 完全下校時刻	63%	37%	◆要検討①
3 テスト日課	81%	19%	★現状維持及び修正
4 未受験者対応	78%	22%	★現状維持及び修正
5 ローテーション道德	67%(81%)	33%(19%)	◆要検討②
6 実力テストについて	81%	19%	★現状維持及び修正
7 朝の時間の使い方	74%	26%	★現状維持及び修正
8 夏季の三者面談・家庭訪問	37%	63%	◆要検討③
9 職場体験の時期	74%	19%	★現状維持及び修正
10 宿泊及び旅行行事	96%	4%	・現状を維持(変更なし)
11 体育祭	70%	30%	◆要検討④
12 騎祭香祭	93%	7%	★現状維持及び修正
13 生涯学習	93%	7%	★現状維持及び修正

グラフ1 学校評価(教職員)の評価の推移

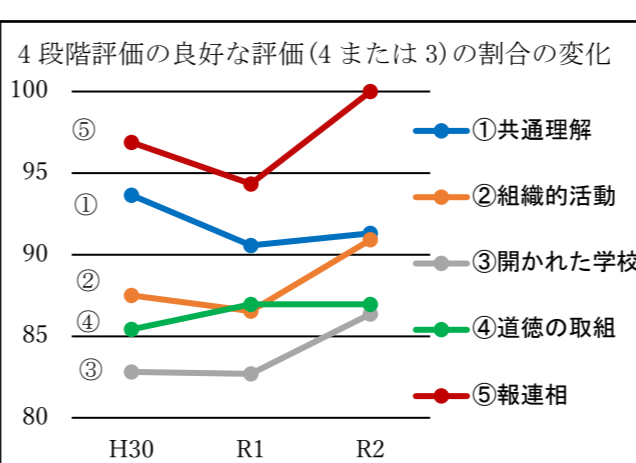


図4 グランドデザイン



図5 「ローテーション道德」実施後の教員の声

●**教員の声**

- ・多くの教員が道德の授業に関わることができ、生徒との人間関係が深まった。
- ・生徒の反応がよくなった。
- ・深く教材研究が進められ、授業の質が向上した。
- ・他の教員の授業を見ることができ、自分の授業に活かすことができた。
- ・担任の負担が大幅に軽減された。

■よかった (86%)  
 ■どちらでもない (9%)  
 ■よくない (5%)

段階的に進めることで新しい企画も円滑に進めることができる。

図3 「ローテーション道德」の導入から実践までの過程

**平成30年度**

- 校長から提案(1月)**
  - ・教頭・主幹教諭・道德主任との協議
  - ・全教職員への内容及び趣旨説明
  - ・実施についてのアンケート

①実施に賛成50% [試験的に1ローテのみ実施してみたら・・・]という意見があった。  
 ②実施に反対15% ③どちらでもよい35%

・アンケートから試験的に行うことを採用

**平成31年度(令和元年度)**

- 主幹教諭・道德主任からの提案**
  - ・実施計画の作成(主幹教諭・道德主任)
  - ・実践(2学期中に1ローテーション)
  - ※3学期に担任のみでローテーションを行った学年があった。
  - ・実施についてのアンケート

①毎学期の実施48% ②2学期のみ実施28%  
 ③年間通して実施19% ④その他5%

・アンケートをもとに年間通して行う計画をとした。

**令和2年度**

- 道德部会での協議を経て提案**
  - ・実施計画の作成(学年担当)
  - ・新型コロナウイルスの関係でローテーションを2回に変更して実施

段階的に進めることで新しい企画も円滑に進めることができる。